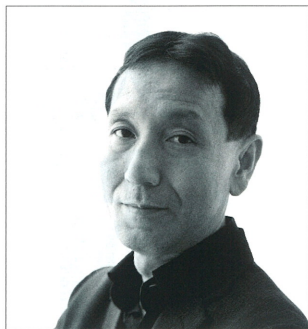


篠原 資明 | 香川県生まれ。京都大学大学院文学研究科(美学美術史学専攻)修了。大阪芸術大学助教授、東京芸術大学専任講師などを経て、現在、京都大学大学院人間・環境学研究科教授。国立美術館外部評価委員(05-)、美学会会長(10-13)、日本学術会議連携会員(11-)、高松市美術館アート・ディレクター(14-)も務める。哲学者・美学者、詩人(日本文芸家協会会員)、美術評論家(国際美術評論家連盟会員、日本美術評論家連盟常任委員)。哲学者としては、あいだ哲学を提唱、詩人としては、方法詩を提唱・実践している。自らの活動を「まぶさび」の理念のもとに統括し、知・行・遊からなる「まぶさび庵」を主宰する。著書に『漂流思考』(弘文堂、のちに講談社学術文庫)、『まぶさび記 — 空海と生きる』(弘文堂)、『ベルクソン — あいだの哲学の視点から』、『空海と日本思想』(2冊とも岩波新書)、『差異の王国 — 美学講義』(晃洋書房)など。



原 久子 | 京都府生まれ。京都造形芸術大学にて『楽叢書』(1985-86)、『AC: Art & Critique』(1987-97)の編集などを担当。1997年よりフリーランスのアートプロデューサー、編集者、ライターとして活動。『イメージの新様態』(92、ギャラリーすずき)、『思い出のあした』展(97、京都市美術館)、『Off-Side』展(02、graf・横浜美術館アートギャラリー)、『六本木クロッシング』展(04、森美術館)、『Lab☆Motion』展(07、TWS本郷)、『Between Site & Space』(08、TWS 渋谷・09、ARTSPACE シドニー)、『あいちトリエンナーレ2010』(愛知県美術館ほか)、『六甲ミーツ・アート』(10-)、『パリに笑壺を運ぶ』(12、パリ日本文化会館)などの企画に携わる。共編著『変貌する美術館』(昭和堂)ほか。大阪電気通信大学教授。

鷺田 めるろ | 京都府生まれ。金沢21世紀美術館キュレーター。東京大学大学院美術史学修士課程修了。世田谷美術館非常勤学芸員を経て、1999年より金沢21世紀美術館建設事務局にて同館の立ち上げに携わる。これまで手掛けた主な展覧会に、『妹島和世+西沢立衛/SANAA』(05)、『人間は自由なんだから: ゲント現代美術館コレクションより』展(06)、『アトリエ・ワン: いきいきプロジェクト in 金沢』(07)、『金沢アートプラットホーム 2008』(08)、『イエッペ・ハイン: 360°』(06)、『島袋道浩: 能登』(13)、現在開催中の『3.11 以後の建築』(14)など。日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブの設立メンバーの一人で、これまで藤本由紀夫、白川昌生などへのインタビューを実施。



浅井 俊裕 | 群馬県生まれ。関西学院大学大学院美学科修了。開館準備室時代より水戸芸術館の企画運営に学芸員として関わり、2009年より現代美術センター芸術監督。MITO ANNUAL '92『大きな日記/小さな物語』(92)を皮切りに、『河口龍夫 — 封印された時間』(98)、MITO ANNUAL '99『プライベートルームⅡ — 新世代の写真表現』(99)、『BIT GENERATION 2000 テレビゲーム展』(00)、『亜細亜散歩 — CUTE』(01)、『造形集団海洋堂の軌跡』(05)、『佐藤卓展 日常のデザイン』(06)、『松井龍哉展 フラワー・ロボティクス』(07)、『ツェ・スーメイ』展(09)など、サブカルチャーからデザイン、現代美術に至るまで多数の企画展やアウトリーチ事業を手掛ける。研究テーマは現代美術、写真、美学。岩手大学(09-)、関西学院大学(08, 10-13)等の非常勤講師。著書に『拡散する美術』(求龍堂)など。

INFORMATION

山口晃展 前に下がる 下を仰ぐ

2015年2月21日(土)ー5月17日(日) 水戸芸術館現代美術ギャラリー

開館時間: 9時30分ー18時 ※入場は17時30分まで 休館日: 月曜日 ※ただし5月4日(月・祝)は開館 入場料: 一般800円、団体(20名以上)600円 ※中学生以下、65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料